＜第５回 竜神地域会議 会議録＞

日　時　　令和８年８月２５日（火）　１８：００～１９：３０
場　所　　竜神交流館　　多目的ホール
出席者　　委　　員　　１８名（欠席者１名）
　　事　務　局　　酒井支所長、青井副支所長、倉地主査
　　オブザーバー　長谷川交流館長

１　会長あいさつ〈省略〉

２　報告事項

以下について、事務局から説明
（１）第４回竜神地域会議会議録について
（２）高岡４地域合同事業の進捗について
①特殊詐欺防止講座の開催について
・１１月５日（木）開催予定の特殊詐欺防止講座について概要を報告した。
②防災バスツアー 名古屋大学減災館へ行こう！実施報告
・８月１日（土）に開催した防災バスツアーについて実施結果を報告した。

３　協議事項

（１）令和９年度地域課題解決事業の事業計画について
以下について、事務局からこれまでの地域会議で整理した防災及び交通安全に関する意見を基に作成した令和９年度の事業計画について説明した。
〇交通安全
・自動車、自転車、歩行者を対象としたスマートフォンアプリ内のバナー広告による啓発
・ＶＲやシミュレーター等の体験型啓発を中心とした竜神安全・安心フェスタの開催
・危険箇所マップを踏まえ、移動式赤色回転灯を活用した危険箇所での注意喚起
〇防災
・防災ハンドブックを作成・配布して終わりとせず、地域行事や防災訓練等で活用する仕組みづくり
・地域の防災訓練を充実させるためのＶＲ等の訓練用資材の貸出し
・自助意識の醸成を促す竜神安全・安心フェスタの開催

その後、Ａ～Ｄグループに分かれて協議し、各グループから発表を行った。
Ａグループ
・免許更新の際に観るような、交通事故を起こしたら自分にどんな影響があるかわかる映像を流す。
・地震の被害に遭われた方が実際に体験したことを知る機会を作る。
Ｂグループ
・啓発の方法は、バナー広告のほかに ETC の音声機能を使い、危険な交差点を知らせることも良い。また、看板を設置して周知したりする方法がある。

・地域住民に自分事として考えてもらうことが大切。

Cグループ

・生活道路で速度を出させないようにするため、通勤時間帯の通行禁止などの措置がある。

・防災ハンドブックを自治区の活動と組み合わせて活用を促す。

Dグループ

・案のとおりで良い。

→各グループの意見を踏まえて事業計画を見直し、次回に令和９年度の実施内容を報告する。

（２）防災ハンドブックの内容について

事務局から、掲載内容として以下を想定している旨を説明した。

・竜神地域のハザードマップや避難所等を掲載する「災害への心構え」

・地震に限らず災害全般の対応や、避難所・在宅避難等の選択肢を整理する「災害発生後の対応」

・自宅が在宅避難可能な状態かを確認する「在宅避難チェックシート」

・家庭での備蓄及び非常用持ち出し袋のチェックリスト

・スマートフォン、テレビ、防災ラジオ等の情報収集手段

・家族の連絡先、集合場所等を記入する欄

・繰り返し見てもらうためのクイズや、防災訓練・イベントで活用しやすくする工夫

その後、Ａ～Ｄグループに分かれて協議し、各グループから発表を行った。

Aグループ

・液状化ハザードマップが小さいため、サイズを大きくする。

・非常用持出袋のチェックリストを記入してもらう工夫が必要。

・文字が小さい部分がある。

Bグループ

・避難所に入れる人数が限られているため、日頃の備えを強調する。

・情報収集の手段として、前林防災ハンドブックのように様々な二次元コードを掲載する。

Cグループ

・文字が小さく、文章が長いためわかりづらい。

・若林防災カレンダーのように、日常的に目にする形で作成する。

Dグループ

・若林防災カレンダーのように毎日目にする形式のものにする。

・防犯の情報についても同様に掲載する。

→事務局から、各グループでハンドブック作成後の活用方法に関する意見が多く出されたことを踏まえ、実際に活用してもらう仕組みを検討する旨を説明した。

４　その他

以下について、事務局から説明

（１）豊田工科高等学校インスタグラムについて

豊田工科高等学校の Instagram に、地域会議の活動写真２枚が掲載された旨を報告した。

★次回開催

第６回定例会：令和８年９月２９日（火）午後６時から　場所：竜神交流館多目的ホール